

## 市民が一体となる新庄まつり

### ～特別養護老人ホーム利用者の参加方法を考える～

吉田 翔

本稿では、新庄まつりに特別養護老人ホーム利用者がどのような形の参加方法があるかについて考察している。

筆者は、約10年前から地元の新庄まつりに参加している。その中で高齢者や施設利用者が参加しているという印象があまり無かった。やはり、祭りというものは老若男女が参加してこそ地域が盛り上がるものであると思う。また、新庄まつりが300年近く継承されたのは昔から新庄まつりに関わってきた人の存在が大切である。若者の新しい意見や主張も大切かもしれないが、昔の人の言葉も今後私たちが継承し残していく上で大切だと思う。このような、誰でも参加できる状況をつくるために高齢者を考え、一体どのような参加の在り方があるのかを執筆することにした。

まず、新庄まつりの現状に触れ、特に参加が難しい要介護高齢者の参加や観覧方法を考える。どのようにしたら高齢者が祭りに参加してもらえるか、何が参加しやすい環境なのか高齢者の特性などを探りながら考え、高齢者が祭り参加する意味なども同時に考えていく。

その中で、特別養護老人ホームに着目して考えていきたい。要介護高齢者は車椅子や寝たきりの方が多く参加できる状況が難しくなる。特別養護老人ホーム利用者は要介護3以上の方であり、要介護により移動動作が異なるため要介護の区分に合った介助を明確にし、移動する際の問題点や参加方法も同時に考えていく。問題点や参加方法を踏まえ、要介護3、4の方は車椅子のためにバリアフリーが必要だと考えた。街のバリアフリーを考えるにあたりどのようなバリアフリーが必要なのかを考えている。また、要介護5の寝たきりの方も新庄まつりを感じられる工夫も考えている。

上記を踏まえ、誰もが楽しめる新庄まつりをつくるための街のバリアフリー化について提案した。また、重度の障害で現地に来られない人にも新庄まつりを感じてもらえる対策について示した。このような取り組みを行うには、新庄市や新庄まつり実行委員の強い繋がりが求められている。